

1月17日

修院長アントニオ

ΑΝΤΩΝΙΟΣ

(251頃～356)

～エジプトの隠修士～



「聖アントニウスの
誘惑」

(ヒエロニムス・ボス)

1450～1516

人名辞典では、アントーニオスと表記される彼は、エジプトの隠修士で修道生活の父と呼ばれる。

中エジプトのメンフィス近くで生まれたアントニオの両親は彼が20歳の時に亡くなった。その際、莫大な遺産を受け継いだ。聖書の言葉、「行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。」(マタイ19:21)に出会い、財産を貧しい人に施して修道生活を始める。285年頃にナイル川を越えた東部の砂漠にあるピスピル要塞に住み始めた彼は、祈祷と観想、そして僅かな手仕事をする毎日をごす。

その禁欲生活の中で、アントニオは激しい誘惑を受けることとなる。それは、私物を取り戻す欲であったり、金銭や名誉に対する望み、また贅沢な食物への執着であった。さらに聖徳に到達できないという失望も感じていった。その欲望は、怪獣の姿をとった悪魔や虚栄の象徴としての若い女性を先立てて近づく悪魔として描かれ、格好の美術の題材となっている。

さてアントニオはそれらの誘惑に神の助けを受けて勝つ。彼が誘惑の中で神に「どこにおられますか」と聞くと、神は「常にあなたと共にいて、あなた

を見守っている。いつでもあなたを助けよう」と答えたという。

その彼の徳を慕って、多くの人たちが彼のもとに来て、彼と共に陰修生活を始めていく。アントニオはその人々のために修道規則を作るのだが、これは組織化こそしていないものの、後のキリスト教における修道生活の基盤となっていく。

彼は312年、人々から離れていく必要性を感じ、紅海の北西端に近いコルジム山に隠棲をする。そして105歳まで生きたとされる。

生前の彼はアタナシオスと親交があり、アリウス派との論争においてはニカイア派を支持した。またアタナシオスが著した「Vita Antonii」(聖アントーニオス伝)はエウァグリオスによってラテン語に翻訳され帝国全体で読まれ、修道生活の理念を広めていった。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした修院長アントニオは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン